

全国保健師長会 栃木県支部だより

発行
全国保健師長会
栃木県支部
平成28年2月1日
第30号



支部長あいさつ

栃木県支部長 渡邊 悦子（県西健康福祉センター）

春寒の候、会員並びに関係各位におかれましては、日頃から当支部活動並びに保健師活動につきまして格別のご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。

全国保健師長会は、昭和54年3月に発足いたしました。当県支部も共に歩み続け、支部だよりは、平成13年8月創刊以来今号でめでたく第30号となりました。これからも会員の連携と資質向上並びに関係者の皆様に保健師活動をご理解いただきたく支部だよりを発行してまいりますのでご愛読下さい。

昨年を振り返りますと、9月に関東・東北に記録的な豪雨に見舞われ、本県も甚大な被害が発生、小山市・栃木市・鹿沼市等の避難所等で災害時保健活動が行われました。

そのような中、五月女ブロック理事（衛生福祉大学校）を中心に、栃木市はじめ多くの皆様から多大なるご協力をいただき9月26日（土）栃木市役所正庁において『北関東・甲信越ブロック研修会』を開催することができました。来年度ブロック研修会は群馬県高崎市で開催予定です。

また、11月28日（土）に熊本県で第37回全国保健師長会代議員総会が開催されました。栃木県からは本部役員として2年間ブロック理事としてご活躍いただいた五月女前支部長と、本県代議員6名の代表として私の2名が出席させていただきました。全国保健師長会員数は、発足当時の10倍にも増加しております。栃木県の会員も今年度145名となり、隣県の役員の方々から『栃木県がいかに会員を増やしたのか教えてもらいたいと思っていた』等、お声かけいただきました。これは、本県支部活動における支部だより（年2回発行）、研修会開催（現場での実践活動報告をもとにした意見交流をメインにしています！）はもとより、これまでの先輩方が「保健師の地域保健活動」について熱い思い語り継いで下さったこと。保健師として『ひるまず・揺るがず・ぶれない』地域実践活動が着実に積み上げられてきたこと。これを引き継いでくれる若い力があること・・・などのおかげであると思います。

最後に、平成28年度の総会研修会の計画を下枠のとおり計画させていただきました。

管理期にある県内会員保健師の災害時保健活動について実践報告をお願いしております。日頃からの後輩育成や地域保健活動に欠かせない同世代の保健師間の相互支援とネットワーク強化にむけて交流する機会としたいと思います。ぜひ、ご参加下さい。

今後も本部とのパイプ役を果たしつつ会員の皆様と情報共有し、支部活動の充実を図ってまいりたいと思いますので、変わらぬご支援を下さいますようお願い申し上げます。

— 平成28年度総会・研修会のご案内 —

- ★ 日時 平成28年5月28日（土）9：45～11：45
- ★ 会場 宇都宮市東市民活動センター（宇都宮市中今泉3丁目5番1号）
- ★ テーマ 関東・東北豪雨の災害における保健師活動を振りかえって
～統括的（リーダー）保健師が果たした役割～

平成 27 年度 北関東・甲信越ブロック研修会報告

*日 時 平成 27 年 9 月 26 日(土) 午前 10 時～午後 3 時 30 分

*会 場 栃木市役所 本庁舎 3 階 正庁

*内 容 (1) 調査研究報告

「ソーシャルキャピタルの醸成や活用にかか
る保健師活動のあり方に関する研究」

(2) 地元自治体の活動紹介～栃木市～

(3) 実践活動報告 長野市・茨城県・栃木県

(4) グループワーク

*参加者数 総数 110 人(県外 35 人, 栃木県内 75 人)



全国保健師長会 菊間副会長

〈 研修会概要 〉

午前中は全国保健師長会の調査研究報告、栃木市の保健活動報告。午後はブロック内の各支部から寄せられた活動実践事例の中から、3 事例を報告いただきました。本県からは、安足健康福祉センターの根岸真知子さんに「子どもの頃からの生活習慣病予防事業の事例」の報告をしていただきました。最後に、全国保健師長会の菊間副会長から研修会のまとめと全国保健師長会の活動についてお話をいただき盛況のうちに全日程を終了しました。

『ブロック研修会を終えて』

五月女 祐子ブロック理事

北関東・甲信越ブロック研修会は、毎年、北関東・甲信越地区の各支部が持ち回りで実施し、栃木県内での開催は平成 20 年度以来 7 年ぶりの開催でした。

研修会直前の 9 月上旬には、関東・東北を襲った水害が発生し、開催地である栃木市をはじめ、県内外の各地に大きな被害の爪痕を残しました。一時は研修会の開催延期も検討しましたが、関係者の皆様の御厚意もあり、予定どおり開催することができました。関係者の皆様方には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

この研修会では、「日頃行っている実践事例を大切に、そこから学びを広げていきたい」との思いから、平成 25 年度より「実践活動事例集」を作成し、その中の一部の事例をブロック研修会で報告していただいています。なお、作成した実践活動事例集はブロック研修会資料として、参加者に配布させていただきましたのでご覧いただければと思います。午後のグループワークでは、今回の研修内容を素材として県内外の参加者同士の意見・情報交換を行いました。どのグループも話が盛り上がり、所定の時間があつという間に過ぎてしまいました。参加者からは「研修会に参加し、もう一度日々の活動を振り返り、頑張ってみようという気持ちになった」等の声が寄せられ、元気をいただいた 1 日となりました。



司会 吉野ブロック理事



来賓 奈良部栃木市保健福祉部長



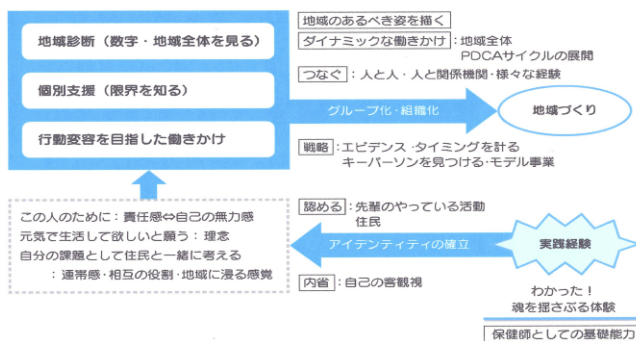
挨拶 五月女ブロック理事

『ソーシャルキャピタル（SC）の醸成にかかる
保健師の能力形成に関する研究』報告から抜粋

報告書はこちら → www.nacphn.jp/03/index.html

- 保健師は、家庭訪問、地域診断、健康教育等の公衆衛生看護活動を通して地域の健康課題を把握し、「住民の主体性の尊重」や「地域住民に対する信頼感」等の地域に対する保健師としての姿勢や価値観を基礎として、SCの醸成を図る。
- 保健師は、地域住民の行動変容や継続した活動や個別課題の解決を目的としてSCの醸成を図った場合でも、保健師の想像を超える効果が得られたり、地域の意識改革や健康課題以外への活動の拡がりがあることに気づいたりする。その後は、健康課題の解決方法としてSCの醸成を意識した地域活動の展開を図るようになる。

<SCの醸成を志向する保健師の公衆衛生看護活動展開モデル>



全国保健師長会研究班 西嶋氏



安足健康福祉センター 根岸氏



グループワークの様子

<研修会全体について>

- ・人材育成、階層別研修などすべての保健師が成長する責任があることが理解できた。
- ・他県や市町の保健師と情報交換を行うことができて今後の保健師活動の力になった。

<調査研修報告について>

- ・ソーシャルキャピタルと人材育成の関連がよく理解できた。
- ・地域診断の大切さと日々の中で業務のやりがいを感じることの大切さを痛感した。



参加者の声

～アンケートから～



<実践報告について>

- ・管理職の役割、スキルアップの課題、地域課題への取り組みなど考えさせられることが多々あった。
- ・各事例において、工夫した取り組みがされていて参考になった。

<グループワークについて>

- ・所属や職位が異なる方々の人材育成の話を知ることができ参考になった。
- ・分散配置の中、保健師活動を考え、語り合うことができ、新たな気づきや参考にしたいことがたくさんあった。

『第37回全国保健師長会代議員総会報告』



*日 時 平成27年11月28日(土)9:00~16:00

*場 所 くまもと県民交流館パレオ(熊本県熊本市)

*参加者 代議員(会員)、会長・役員・スタッフ他 計 約250名

来年度は奈良県
で開催予定

＜結果概要＞ (詳細は会員に配布されている代議員総会資料をご覧ください)

午前に基調講演とシンポジウム、午後は、議長団を選出し(議長は熊本県、副議長は奈良県)議事及び代議員による新役員選挙等が行われた。今年度の会員5,210名のうち代議員出席214名、委任状125名で総会は成立し、すべての議事が承認された。

＜シンポジウム＞

「保健師活動の見える化～魅せましょう 私たち保健師の活動～」

座長 熊本県立大学大学院 アドミニストレーション研究科 教授 荒木 紀代子 氏

はじめに、座長から「保健師の専門性が十分に理解されていないのではないか。保健師が分散配置されているが、単に何でもこなす使いやすい便利屋として重宝されているだけになっていないか。」と問題提起があり、以下の3題の「活動の見える化」実践報告が行われた。

- ・がんサロンのネットワーク化(大分県東部保健所)
- ・地域連携による糖尿病対策(熊本県御船保健所)
- ・市と保健所が協働で取り組む地区診断(熊本県糸島市)



まとめとして、保健師活動の中核をなす実践活動の見える化が求められている。これまで看護職は黒子が美德、謙遜が美德とされてきたが、脱皮しなければいけない。「私は、どういうことをする人なのかをまとめ、いろいろなところで発信することが必要。自分たちの活動のプロセス評価やデータ化などを通して成果を明らかにしていく中で、最終的に“住民の健康度を高める役割を果たしている”ことを示していくことが求められると話された。

『保健師長会 指定都市・政令市・中核市・特別区部会活動報告』

宇都宮市 難波 敏子



私は、平成26・27年度の2年間「指定都市・政令市・中核市・特別区部会」の委員として活動しています。部会の主な活動は、国への要望書作成と調査研究です。部会のメンバーは5名で、それぞれが「保健師活動で今一番気になっていること」を意見として出し合い、その中からテーマを決めていきました。

テーマは「ソーシャルキャピタルの醸成と人材育成」とし、先進地を探し、2グループに別れて視察を行い、報告書をまとめました。報告書は、全国保健師長会ホームページ(下記参照)に掲載していますのでぜひご覧ください。<http://www.nacphn.jp/02/bukai.html>

先進地の視察や、報告書の作成を通して、何より参考になったことは、自分の所属自治体より大きい自治体でリーダー的役割を担って活動しているメンバーとの情報交換です。若い保健師に地区活動を伝える工夫など人材育成に関することや、事業実施する上で若い年代を狙って計画していることなど、今取り組んでいるお話を聞くことができ、自分も何かできるのではないか・・・と考えるきっかけとなりました。年数回、東京での部会に出かけることは少し負担ではありますが、メンバーの皆さんからパワーをいただき、とても良い経験をさせていただいています。任期は残りわずかですが、皆さんからいろいろ吸収し、職場に還元していきたいと思えます。